

令和8年（2026年）度 年間授業計画（シラバス）										
学年	1	学科	全学科	単位	2	教科	地歴公民	科目	歴史総合	
学習教材	・明解 歴史総合 ・明解 歴史総合ノート（帝国書院）									
学習目標	<p>（1）近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>（2）近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>（3）近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>									
単元と学習内容										
1 学 期	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料 2部 近代化と私たち 1章 「近代化」への問い 2章 江戸時代の日本と結びつく世界 3章 欧米で生まれる国民国家 4章 産業革命による欧米とアジアの変化 5章 日本における近代国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの事象と世界の歴史がむすびついていることを理解する。 ・絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性と、その正しい読み解き方について理解する。 ・近代化に対しての「問い」を完成する。 ・18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について理解し、現代の貿易との違いについて考察する。 ・市民社会と国民国家の形成の経緯を理解し、近代化の意義と現在社会との関わりを考察する。 ・欧米諸国の産業革命と世界進出が世界の国々にもたらした変容と影響について理解し、その歴史的意義について現代社会に与えた影響と関連付けて考察する。 ・日本における近代国家の形成過程と特徴について理解し、日本の国際的地位がどのようにして向上したのかについて考察する。 								
	2 学 期	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 「国際秩序の変化や大衆化」への問い 2章 第一次世界大戦とその影響 3章 大衆社会の形成と社会運動 4章 揺らぐ国際秩序と日本の行方 5章 第二次世界大戦とその影響	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米の帝国主義の動きが、近代化が進む東アジア諸国の関係に与えた影響について理解し、その歴史的意義について現代社会への影響と関連付けて考察する。 ・国際秩序の変化や大衆化についての「問い」を設定する。 ・第一次世界大戦の経緯と、参戦各国の政治・社会・文化の変化を理解し、その後の世界にどのような影響を与えたか考察する。 ・大衆社会の成立と国際協調の機運が世界規模で広まった経緯とその特徴を理解し、現代社会への影響を考察する。 ・世界恐慌から日中戦争に至るまでの経緯について理解し、国際協調体制が崩れた背景について考察する。 ・第二次世界停戦とその後の冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解する。 							
		3 学 期	4部 グローバル化と私たち 1章 「グローバル化」への問い 2章 冷戦で揺れる世界と日本 3章 多極化する世界 4章 グローバル化のなかの世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化についての「問い」を設定する。 ・米ソの緊張とその緩和のなかで、日本を含むアジア・アフリカ諸国が目指した独立や自立を理解し、冷戦構造がどのような課題を生み出したのか考察する。 ・1960年代から80年代を中心に、冷戦下における各国の選択と経済成長について理解し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察する。 ・冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解し、その特質や問題点を考察する。 						
評 価										
評価の観点		到達度目標〔「B」（おおむね満足できる）の規準〕				評価のフィードバック				
						1期末	2期末	学年末		
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア史や近現代史を我が国の歴史と関連させて理解するのに必要な基本的な知識を身に付けている。 ・諸資料を収集し、必要な情報を選択して活用することができる。 				○	○	○		
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とする世界の知識をもとに、現代の地球的課題を多面的に考察しようとしている。 ・国際社会の変化をふまえ、授業で考察した内容を適切に表現することができる。 				○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア史や近現代史を中心とする世界や日本の歴史に興味や関心を持ち、授業の内容や学習項目について、問題意識を持って理解しようとしている。 				○	○	○		
評価方法	①		②			③				
	⑦定期考査 ⑧ワーク ⑨調べ学習レポート		⑦定期考査 ⑧グループ活動（討論・発表） ⑨調べ学習レポート			⑦定期考査 ⑧出席状況や提出物 ⑨学習参加の仕方や態度				